

四季
だより

こ
し
ん
だ
ん
だ

新春号

2018
VOL.09

Contents [目次]

大新年会	2P
看護部だより	3P
リハビリテーション科だより	3P
学術発表報告	4P
講演会	4P
医師コラム	5P
クリスマスコンサート	6P
ふくわらい	6P
院内旅行報告	7P
カンボジア研修報告	7P
医療連携室より	8P
アクセス	8P



雪だるま作成者
リハビリテーション科 岡村 大二郎

一般社団法人 巨樹の会



五反田リハビリテーション病院

大新年会

平成30年1月25日(木)、目黒区のホテル雅叙園東京にて連携先の医療関係者の方々、国会・都議会議員、地域の皆様、グループの関係者をお招きして、合計約420名の参加による新年会を開催いたしました。

NTT東日本関東病院の亀山周二先生、東京高輪病院の木村健二郎先生、品川区医師会の宮平寛先生から温かい御挨拶をいただき、松谷院長からも職員への感謝の言葉が述べられました。

各病棟の余興発表では練習成果を如何なく発揮して、とても素晴らしい演技を披露することができ、職員間の団結を深めることができました。

今後も地域に一層評価される病院を目指してまいりますので、御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

総務課 佐藤 明生



大新年会

看護部だより



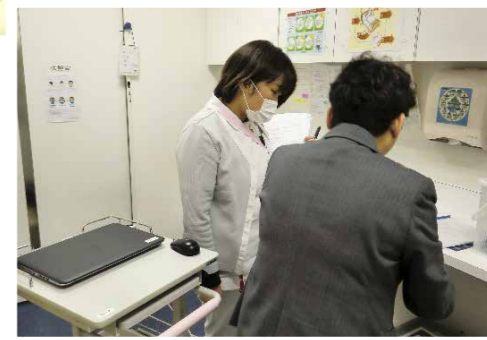
感染管理

いつも感染管理に関する活動へのご協力ありがとうございます。1月31日(水)に、(株)ハクゾウメディカル感染管理認定看護師の山佐氏と院内ラウンドをさせていただきました。これは、開院してからはじめての試みです。以前より問題点であると認識していたこと、また感染管理の専門的な視点からご指摘いただいたことにより、大変大きな学びとなったと感じています。ここで得られたことを感染防止委員会のメンバーと共有し、今後の活動に生かしていきたいと考えています。これまで以上に、手指衛生と個人防護具(PPE)装着の遵守率の向上、環境面の改善に対して取り組みを進めていきたいと思ひます。

感染管理の役割は、多岐にわたります。全ての患者・家族・訪問者はもちろん、現場で働く全ての人を感染源から守ることが一番の役割です。そのために、当院での現状を把握して、感染症拡大防止ができるように、日々取り組んでまいりたいと思ひます。そのために、皆さまのご協力が不可欠となります。感染管理というと、とても難しく、大変な業務のように感じる方も多いかと思ひます。しかし、継続して活動を重ねること、皆さまと協働して活動することにより、大きな成果へとつながります。どうか、今後ともお力添えください。皆さまからのお声を大事にしながら、前進していきたいと思ひます。



感染管理担当看護師 藤岡 乙美



リハビリテーション科だより



野球部の活動報告

野球部では、関東巨樹の会グループでのリーグ戦(通称Kリーグ)に参加しており、年間を通して試合をしております。一昨年に開催された第1回Kリーグでは、見事当院が優勝することができ、とても盛り上がっております。



※昨年、小金井リハとの試合後の写真

現在、若いスタッフが中心となり25名の部員が在籍しており、仕事終わりに練習や試合を行い、積極的に活動しております。当チームは、フレッシュさや元気があり、個性も強いのでベンチからの野次も魅力的です!(笑)

昨年の第2回大会では、予選トーナメントで敗退してしまい、悔しい思いをしました。そのため今年の大会は優勝を目指して本格的に身体を作って準備しております。

リハビリテーション科 野球部代表 前田 健志

第35回 日本脳腫瘍学会学術集会

平成29年11月26日(日)から28日(火)の3日間で、香川県高松市で開催された「第35回日本脳腫瘍学会学術集会」に参加させて頂きました。そして、学会2日目に「悪性神経膠腫患者に対する短期集中リハビリテーションの効果」というテーマでポスター発表をさせて頂きました。この発表は、当院の松谷院長が発表内容の大部分を考案され、リハビリテーション分野に関して、理学療法士の廣田主任と共に、データ集計などのお手伝いをさせて頂きました。そして、当日の発表という大役まで頂きました。

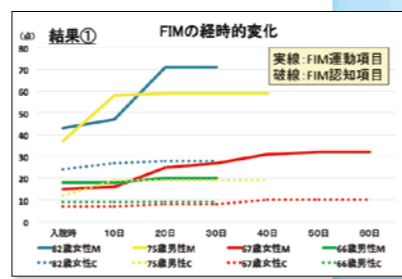
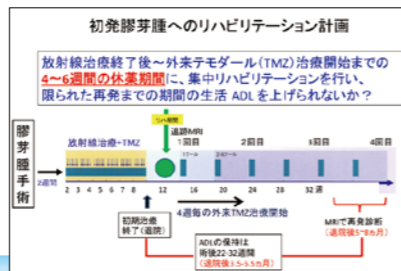
学術集会は、日本各地はもちろん、海外からも脳腫瘍分野に関する著名な先生方が多数参加されておりますが、私たちのようなリハビリテーションに関する発表は珍しく、多くの先生方から注目して頂き、発表後にはご意見やご指導の言葉も頂戴しました。

今回の発表で脳腫瘍分野におけるリハビリテーションの注目度の高さ、可能性を感じることもできました。この体験をこれからの日々の臨床業務に活かしていきたいと思っております。

リハビリテーション科 岡村 大二郎



▼初発膠芽腫へのリハビリテーション計画



▲FIMの経時的変化

横田淳医師講演会

平成29年12月8日(金)、当院回復期リハビリテーション病棟専従医師の横田 淳(よこた じゅん)先生による「癌について」の講演会を実施しました。「がんゲノム研究」という少し難しい内容ではありましたが、熱いお話を聞かせていただくことができ、横田先生の専門分野を知る良い機会となりました。横田先生は長年癌の先端研究をされてきた研究者で、スペインバルセロナに関するお話や趣味のテニスやギターのお話も聞くことができました。

回復期リハビリテーションというと、リハビリテーション専門医、脳神経外科、整形外科の医師が浮かびますが、当院には内科専門医や横田医師のようながん治療の知識に詳しい医師も在籍しており、全医師が協力して診療にあたっております。

総務課 佐藤 明生



リハビリテーション医の独り言

副院長 石川卓志

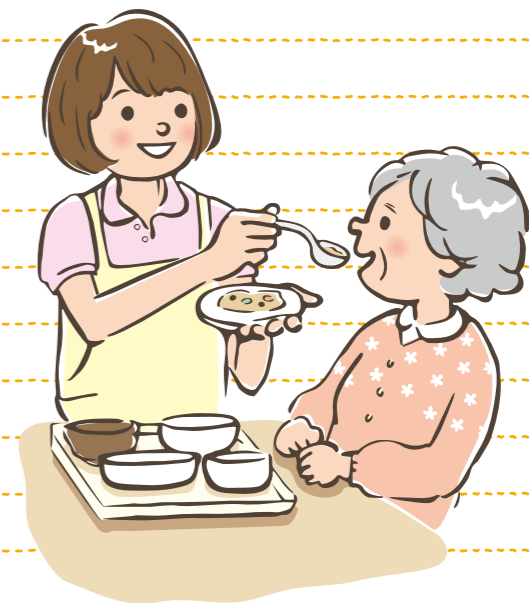


今回は嚥下障害について述べたいと思います。食事は人間をはじめ動物にとって生きるための必須のアイテムです。日常生活活動の各項目の中で早期から自立しやすい項目ですが、障害の重度化により回復期リハビリテーション(以下「リハ」と略します。)において嚥下障害を有する患者様が増加しているのも事実です。

このような患者様に対し、急性期病院では通常禁食となり、経管栄養が実施されます。食事をやめても唾液が嚥下できず肺炎を合併するようなケースでは、気管切開が実施されて気道内の吸引をしたり、風船で誤嚥をせき止めるための器具が挿入されます。これらの器具はケアを容易にしますが、異物が挿入されていることで嚥下運動自体には障害になるので、できれば早めに抜いてしまいたいのですが、管理上それが難しいのが現実です。

経管栄養のチューブは通常鼻から胃まで挿入されます(経鼻経管栄養法)が、食事を投与する時意外はない方がよいので、これを毎回抜き差しし、更に本来の食物通路である口から管を飲み込んでもらう間欠的経口経管栄養法が推奨されています。この方法は管を飲み込む動作が嚥下運動の訓練になりますし普段は異物がないので、機能回復の点からも留置したままよりもはるかに有用なのですが、挿入にある程度の苦痛を伴うため患者様の理解と協力が必要なおことに加えて、手技が難しいこと、朝夕の食事時間が夜勤時間帯であることにより実施できるスタッフ確保が不十分なため実際には広く普及していない状況です。

いずれにせよ、食事は人間の根本欲求である食事をおいしく召し上がっていただくために、各患者様の状態を的確に把握し、食事形態、摂食時の姿勢、食物の1回量、ペーシング、安全確認、食後ケア等リハでのアプローチも進歩しています。当院でも各スタッフが連携して積極的に取り組んで参ります。



クリスマスコンサート



東京女子医科大学看護学部音楽部によるクリスマスコンサートを12月19日(火)・20日(水)と連続して開催していただきました。看護学生の皆様は、クリスマスの赤い帽子をかぶり笑顔で患者様とともに歌って下さいました。開催後の患者様からのアンケートでは「美しい声を聞き、少し元気が出ました。ずっと落ち込んでいたので。」や「wonderful moment in my life! Super experience!」と嬉しい声が聞くことが出来ました。今後も患者様が充実した生活が送れるよう催し物を企画してまいります。

看護部 高橋 季子



院内旅行報告

ダナン旅行 / 5日間



1月20日(土)より5日間、私達は院内旅行でベトナムへ行き、ビーチリゾートであるダナンやランタンで有名なホイアンを観光してきました。

運悪く、生憎の天気でしたが、ダナンではシーフード、そしてベトナム料理を楽しみ、ホイアンでは旧市街の町並みを楽しみました。4日目の夜にはU-23アジアカップ決勝にベトナム代表が初進出を決めたため、ベトナムの道路中に国旗を持った若者達がバイクにまたがり、町は歓喜に沸きお祭り騒ぎになっていました。

バイクの渋滞もあり最終日の集合時間に間に合うかハラハラしましたが、今回の旅行では沢山の良い思い出をつくることができました。

リハビリテーション科 高澤 悠輔



ふくわらい



あけましておめでとうございます。1月2日(火)、新年のレクリエーションとして「ふくわらい」を実施しました。「おかめ」と「ひょっこ」のふくわらいを用意し、目隠しをした状態でおこなっていただきました。各パーツをしっかりと手でたどり、それぞれの「おかめ」と「ひょっこ」が出来上がりました。完成後は目隠しを取り、みなさまで意見交換を行うなど楽しんでいただくことができました。今後もこのようなレクリエーションを企画して患者様に楽しんでいただける機会を作りたいと思います。

リハビリテーション科 馬渡 亜樹子



カンボジア研修報告

平成30年1月26日(金)～30日(火)の5日間でカンボジア研修会に参加させて頂きました。

ベトナムのハノイを経由し、シェムリアップ国際空港に1日かけて到着。当地でのクメール料理に舌鼓を打ち、世界遺産としても有名なアンコール・トム遺跡群を見学しました。その後、訪れたキング・フィールドやアキラ地雷博物館では、カンボジアの歴史的背景の一部を肌で感じる機会を得ました。

3日目には、アンコール・ワット遺跡群見学を経て、アンコール小児病院の開院19周年祝賀パーティに出席させて頂きました。出席者700名の大盛況で、様々な国・職種の方が一同に会する中、グループ病院から福岡和白病院 富永院長がスピーチされました。翌日の病院視察では、一日の外来患者数600人以上をトリアージにより重症度に優先順位をつけて診療せざるを得ない状況でした。救急患者数は毎月1000件以上を超え、入院疾患では栄養失調・結核など先進国では少なくなった患者様も多くみられました。当地を訪問し、改めて支援を必要とすることを痛感しました。



今回の研修で、カンボジアの医療事情や当地の風土に触れることが出来ました。その他、関連施設のスタッフ間のコミュニケーションを図る機会にもなり、大変有意義な時間を過ごさせて頂きました。今回感じた思いを忘れず、日々の診療に役立てていきます。

リハビリテーション科 波多野 崇



医療連携室だより



カマチグループ
一般社団法人 巨樹の会
監修

「回復期リハビリテーション」
について
詳しいホームページが出来ました!

何をしてくれるの?
回復期ってなあに?
私も入院できるの?
対象者って、どんな病気?
保険は使えるの?
どうして入院型なの?
どんなところ?
クリニックでのリハビリと何が違うの?

スマホ版でも
見やすい!
わかりやすい!



回復期リハビリテーション.net

よりたくさんの方々へ「回復期リハビリテーション」の情報を
もってご理解いただく事を目的としたサイトです。

<http://kaifukuki.net>

回復期リハビリテーション.net

検索

スマホ版は
こちらから▶



回復期の大事な数字

発症から 2ヵ月以内	入院できる期間 180日最長	1日最大 3時間リハビリ
病棟基準 3段階	スタッフ 9職種	スタッフと患者様 1.5:1
リハビリ実施 365日	在宅復帰率 85%	リハビリ療法 3種類

※のマークが付いているものは、カマチグループでの特徴的な数字です。

インターネット環境をお持ちでない方



回復期リハビリテーションとは何か
を知っていただける本も作成して
おります。

未来をみつめる、安心と信頼のケア
カマチグループ巨樹の会
回復期リハビリテーション

下記医療連携室まで
お気軽にお問い合わせくださいませ。

医療連携室 (1階受付) 医療連携室の受付時間
9:00~16:30 (月~土曜日)

☎ 03-3779-8826 (直通)

四季だより

ごんだ
だ

新春号
2018
VOL.09

平成30年2月



一般社団法人 巨樹の会

五反田リハビリテーション病院
広報委員会

〒141-0031 東京都品川区西五反田8丁目8-20
TEL 03-3779-8820 / FAX 03-3779-8823



- 五反田駅 (JR山手線、都営地下鉄浅草線、東急池上線) 徒歩8分
- 大崎広小路駅 (東急池上線) 徒歩3分
- 大崎駅 (JR山手線、埼京線、りんかい線) 徒歩12分

ごんだ
四季だより

VOL.
09

2018 新春号

企画・発行所：一般社団法人 巨樹の会 五反田リハビリテーション病院 広報委員会